

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構  
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 176-0001

所在地 東京都練馬区練馬1-20-2

評価機関名 株式会社 日本生活介護

認証評価機関番号

機構 02 - 015

電話番号 03-3991-8440

代表者氏名 佐藤 義夫

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	鈴木 雄司	福祉	H2101005
	②	小田嶋 ひろ子	経営	H2301098
	③	望月 俊彦	福祉	H2401035
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	桜丘小新BOP学童クラブ			
事業所連絡先	〒	156-0054		
	所在地	世田谷区桜丘1丁目19番17号		
	TEL	03-5477-4548		
事業所代表者氏名	事務局長 植田 圭司			
契約日	2025 年 4 月 16 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 7 月 1 日			
利用者調査結果報告日	2025 年 10 月 7 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年 6 月 12 日			
自己評価結果報告日	2025 年 10 月 7 日			
訪問調査日	2025 年 10 月 17 日			
評価合議日	2025 年 10 月 17 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査については、アンケート調査を行った。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。  
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)組織目標 明るく楽しい安全・安心な生活の場と遊びの場を作る 2)方針① 遊びを通じて心身の望ましい成長を支援する 3)方針② 様々ななかかわりの中で思いやりの気持ちを育てる 4)方針③ 学校・地域と連携し環境を整える 5)実施目標 行事・イベントの年間実施計画を策定し、計画に基づき着実に実施していく</p>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>＜人材像＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもや保護者の人権に十分に配慮するとともに、一人ひとりの人格を尊重でき、子どもの性別・個人差への配慮ができる</li> <li>・職務を通じて知りえた子ども・保護者・家庭などに関する個人情報の適正な収集、管理ができ、守秘義務を遵守できる</li> <li>・保護者に誠実に対応し、信頼関係を構築できる</li> <li>・職員間で相互に協力し、研鑽を積みながら、新BOP事業内容の向上に努める</li> <li>・新BOP事業の社会的責任や公共性を自覚できる</li> </ul> <p>＜役割＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新BOP事務局長は、子ども・若者部の新BOP事業管轄の児童館長との連携を図り運営全体を統括する</li> <li>・児童指導職員は、主に学童クラブの運営指導を担当するとともに、新BOP指導員の指導等、新BOP事務局長と協働して新BOP全体の運営を担う</li> <li>・新BOP指導員は、新BOP(学童+BOP)参加児童全体の遊びと生活指導などを担うとともに、担当学年の児童の状況や年齢に応じた支援に努める</li> </ul> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常に子どもの視点(子どもの最善の利益の視点)に立ち、子ども一人ひとりの人権に配慮した運営を心がけられること</li> <li>・チームとして新BOP運営をしていることを意識し、自身の役割を理解、遂行するとともに職員間で協力し合いながら仕事を進められる姿勢</li> <li>・公的な立場であることを自覚し、公務員倫理に基づき職務にあたる姿勢</li> </ul>

調査対象

登録児童全員を対象とした。

調査方法

Webによるアンケート調査は、QRコードを記載した案内文を配布し、回答が直接評価機関に届くようにした。

利用者総数

205

共通評価項目による調査対象者数  
 共通評価項目による調査の有効回答者数  
 利用者総数に対する回答者割合(%)

アンケート	聞き取り	計
205	0	205
79	0	79
38.5	0.0	38.5

**利用者調査全体のコメント**

調査対象者205名のうち、79名から回答を得ることができた。  
 満足度の高い項目として、「病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか」「子どもの気持ちを尊重した対応がされているか」「子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか」「学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか」「おやつ時間が楽しいひとときになっているか」「職員の接遇・態度は適切か」などがあげられる。  
 総合的な満足度では、総合的な満足度では、71名(90%)が「大変満足、満足」、5名(6%)が「どちらともいえない」、3名(4%)が「不満、大変不満」と回答しており、全体として高い評価を得ている。また、「もっと外で遊びたい」「とっても楽しい」「もっとおやつを増えると嬉しい」などのコメントがあがっている。

**利用者調査結果**

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	63	12	4	0
63名が「はい」、12名が「どちらともいえない」、4名が「いいえ」と回答している。また、「校庭遊びが楽しい」「友達と遊べて楽しい」「漫画がたくさんあって嬉しい」「人が多くて落ち着かない」などのコメントがあがっている。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	58	7	4	10
58名が「はい」、7名が「どちらともいえない」、4名が「いいえ」と回答している。また、「いろいろ話を聞いてくれて嬉しい」「相談に乗ってくれる」「先生によって対応が違う」などのコメントがあがっている。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	63	12	3	1

63名が「はい」、12名が「どちらともいえない」、3名が「いいえ」と回答している。また、「おやつがおいしい」「めっちゃ楽しい」「週に1回果物が出るのが嬉しい」「おやつが飽きる」などのコメントがあがっている。

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	32	6	3	38
32名が「はい」、6名が「どちらともいえない」、3名が「いいえ」と回答している。また、「やりたいイベントを先生に言うと、いいね、と話にのってくれる」「あまり意見を言わない」などのコメントがあがっている。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	62	4	4	9
62名が「はい」、4名が「どちらともいえない」、4名が「いいえ」と回答している。また、「わかりやすく話してくれる」とのコメントがあがっている。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	43	17	15	4
43名が「はい」、17名が「どちらともいえない」、15名が「いいえ」と回答している。また、「いつもきれいで過ごしやすい」「ピカピカでスッキリした気分」「使ったおもちゃを片付けない子もいる」などのコメントがあがっている。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	63	8	2	6
63名が「はい」、8名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。また、「いつもきちんとしている」「話し方はいいと思う」などのコメントがあがっている。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	68	4	0	7
68名が「はい」、4名が「どちらともいえない」と回答している。また、「安心してけがをしたことなど先生に伝えられる」などのコメントがあがっている。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	64	4	1	10
64名が「はい」、4名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「あまりケンカはしない」などのコメントがあがっている。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	65	5	1	8
65名が「はい」、5名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「先生に話しかけると、いつも優しく返事をしてくれる」などのコメントがあがっている。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	45	7	2	25
45名が「はい」、7名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。また、「内緒の話はない」「そういう機会がなかった」などのコメントがあがっている。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	61	6	1	11
61名が「はい」、6名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。子どもの不満や要望に一定の対応がなされている様子がうかがえる。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	25	6	10	38
25名が「はい」、6名が「どちらともいえない」、10名が「いいえ」、38名が「非該当・無回答」と回答している。また、「聞いたことがない」などのコメントがあがっている。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>7/7</b>
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <span style="float: right;">○非該当</span>
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <span style="float: right;">評点(〇〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝える <span style="float: right;">○非該当</span>
	カテゴリー1の講評	
	ミーティングなどを通じて理念や方針を職員に繰り返し伝え、方向性を共有している 新BOP(学童+BOP)では、ロングミーティングや日々のミーティングなど、あらゆる機会を通じて理念や方針を職員に繰り返し伝え、実践につなげている。新BOP連絡協議会の資料や議事録も職員へ説明・回覧することで、新BOPが目指す姿について共有と理解促進を図っている。入会説明会、BOP保護者説明会の内容についても職員に還元し、保護者との関係性を重視した運営ができるよう努めている。事務局長や児童館長、児童指導職員が積極的にリーダーシップを発揮し、より良い新BOPの活動づくりを牽引し、職員全体で方向性を共有している。	
	子どもや保護者、学校関係者に対し、新BOPの理念や活動内容を伝えている 子どもや保護者、学校関係者に対し、新BOPの理念や活動内容への理解が深まるように努めている。保護者には、学校主催の新一年生保護者説明会に参加し、区が作成した「新BOPのご案内」や「新BOPだより」を用いて、クラブの役割や活動内容を分かりやすく説明している。また、事務局長が学校協議会に参画するほか、学校管理職や教員との日常的なコミュニケーションを通して良好な関係を構築している。年2回の新BOP連絡協議会では運営状況を説明して理解を得るようにしている。関係機関との意見交換を通じてクラブ運営の改善に活かしている。	
	重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について丁寧に周知している 新BOP運営や子どもに関する重要事項を、職員や保護者、学校と共有している。例えば、学校の改修工事に伴う夏休み期間のBOP休止(学童クラブのみ通常運営)について、子どもたちの安全を第一優先に学校と認識を共有し、区の承諾を得たうえで決定している。その経緯はロングミーティングで職員に伝えている。子どもや保護者には「新BOPだより」で、夏休み期間の対応についてわかりやすく説明し、必要に応じて、BOP児童の個別相談も受け付けている。意思決定の透明性と周知の丁寧さが確認でき、組織運営に安心感をもたらしている。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>利用者・職員・地域・行政の声を幅広く集め、課題を見極めている</p> <p>保護者会や日々のお迎えの場で保護者の声を丁寧に受け止め、必要に応じて所管部署へ伝えている。職員の意見もミーティングを通じて共有され、運営に反映されている。地域福祉の状況については、連絡協議会や児童館主催の地域懇談会、学校協議会への参加を通じて情報を得ており、町会役員との意見交換も行われている。さらに館長会や事務局長会で行政の最新動向を確認し、経営状況は独自資料で継続的に管理している。利用者・職員・地域・行政の声を幅広く集め、課題を見極め、新BOP運営に活かしている。</p> <p>年間活動計画を作成し、放課後児童健全育成事業の「7つの目標」を取り入れている</p> <p>新BOPでは区の方針を基盤に、運営計画および年間活動計画を作成し、放課後児童健全育成事業の「7つの目標」を取り入れている。さらに、民設民営学童クラブとの連携強化を目標に掲げ、実践を進めている。予算については所管部署からの配当を管理する形で対応しており、独自申請は行っていない。区の方針を尊重しつつ、新BOP独自の目標を加えた計画が策定されている。公共サービスの枠組みを大切にしながら、地域とのつながりを重視した柔軟な計画づくりが行われている。</p> <p>年間計画で月別の取り組みを明確化し、必要に応じて見直ししながら柔軟な運営をしている</p>		

新BOPの年間計画では、体を動かすイベント、製作・表現活動、伝承遊び、学校・地域・児童館との連携行事など月ごとの取り組みを明確にしている。また、避難訓練や交通安全講習などの安全対策も計画的に実施している。登録児童数や活動実施状況は適宜整理し、連絡協議会において関係機関へ報告するとともに、職員にも共有している。進捗管理については、半期・月単位で活動の実施状況や課題を確認し、必要に応じて計画を見直している。子どもの成長や安全に配慮した活動が継続できるよう、計画に基づきながら柔軟な運営をしている。

3 経営における社会的責任			2/2
サブカテゴリ-1 (3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。		○非該当
サブカテゴリ-2 (3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○非該当
サブカテゴリ-3 (3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		○非該当

### カテゴリ3の講評

#### 職員が倫理規範を日常的に意識し、遵守しているかを定期的に確認している

「新BOP運営基準」や「会計年度任用職員に関する手引き」を常備し、職員が理解できるようにしている。短時間臨時職員には個別説明を行い、遵守事項を明示しているほか採用面接時には人権チェックリストを用いて意識を確認している。ロングミーティングや日々の打ち合わせで繰り返し周知し、重要事項は掲示によって注意喚起している。職員が倫理規範を日常的に意識し、遵守しているかを定期的に確認している。組織として法令遵守と倫理意識の定着を重視し、継続的な確認を通じて信頼性を高めている。

#### 新入生保護者説明会で相談窓口を明示し、保護者が安心して相談できるようにしている

新入生保護者説明会で、区の「新BOPのご案内」を用いて相談窓口を明示し、保護者が安心して相談できるようにしている。苦情や要望は所管部署へ連絡し、必要に応じて学校とも情報共有を行う体制がある。また、対応内容は指定の様式で時系列に記録し、透明性を確保している。疑いがある場合には児童館や児童課、学校と連携し、迅速に対応している。利用者の権利を守るための組織的な仕組みが整備されている。利用者の安心を支えるため、制度的枠組みと日常的な確認を両立させている。

#### 定期的に連絡協議会や保護者会を開催し、活動内容を開示している

新BOPでは、定期的に連絡協議会や保護者会を開催し、活動内容を開示している。保護者会では写真掲示を通じて日常活動を伝え、開かれた組織づくりを進めている。また、学校教員研修や保育園からの見学を受け入れ、地域との交流を深めている。児童館主催の地域懇談会や町会連絡会に参加し、職員増員や子どもの見守り活動を協働で進めている点も特徴である。地域ネットワーク内で共通課題を共有し、協働体制を築いていることが確認できる。透明性を重視しながら、地域の一員として積極的に役割を果たしている。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>各種手続きやマニュアルに基づいてリスクへの対策を講じている</p> <p>新BOPでは、各種手続きやマニュアルに基づき、事故・感染症・侵入・災害等のリスクを把握し、必要な対策を講じている。所管部署が定める「新BOP運営基準」「育成事業運営方針」「安全対策マニュアル」に沿って、運営計画および年間活動計画を策定し、その中に研修・安全確保・防犯安全(避難訓練)・交通安全などの項目を明確化している。また、定期的な訓練や研修を通じて職員の理解と実践の定着を図っている。事故等が発生した際には、事故報告書を作成し、事実の整理、要因の分析、対応の妥当性を振り返り、再発防止策を検討している。</p> <p>リスク対策に関する内容を保護者などに周知し、安全確保につなげている</p> <p>新BOPでは、リスク対策に関する内容を職員・保護者・関係機関に適切に周知し、理解して対応できる体制を整えている。連絡協議会での議論や決定事項は、ロングミーティングでの説明や資料回覧を通じて職員に共有している。また、「桜丘小新BOP利用の手引き」見直し版を全家庭に配布し、緊急性の高い内容については正式承認を待たず「新BOPだより」で迅速に周知している。夏休みの校舎工事など特別な状況においても、事業継続に関する方針を明確にし、保護者への説明を徹底することで、安全確保と円滑な運営を両立させている。</p> <p>区の管理規則に基づき、情報管理の活用と保護の両面で適切に機能している</p> <p>情報は区の管理規則に基づき収集・保管・廃棄を行い、職員や短時間臨時職員に手引きを通じて周知している。紙媒体は共通キャビネット、電子情報は共通フォルダーに整理し、必要な人が必要な時に活用できるようにしている。個人情報は限られた職員のみがアクセス可能とし、離席時のPC閉鎖や施錠など具体的な対策を実施している。さらに区の情報公開制度や個人情報保護制度に基づき、利用目的の明示や開示請求への対応体制を整えている。情報管理は活用と保護の両面で適切に機能している。</p>		

5			カテゴリ-5	
5			職員と組織の能力向上	
			サブカテゴリ-1(5-1)	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			12/12	
評価項目1			事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている	
			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○非該当	
評価項目2			事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している	
			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○非該当	
評価項目3			事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる	
			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○非該当	
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○非該当	
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○非該当	
評価項目4			職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる	
			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○非該当	
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○非該当	
			サブカテゴリ-2(5-2)	
組織力の向上に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			3/3	
評価項目1			組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる	
			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		○非該当	

あり なし

3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる

非該当

#### カテゴリ-5の講評

##### 現場の声を尊重しながら、人材マネジメントに取り組んでいる

採用は所管部署が中心となって行っている。派遣会社との面談や短時間臨時職員採用には事務局長が関与し、町会や大学への働きかけも行っている。こうした工夫により人材確保が進められている。異動や配置は所管部署の判断で実施されているが、その際には児童館長が職員の意向を聞き取り、現場の状況を踏まえて決定している。研修は勤務形態に関わらず受講でき、経験や希望に応じた体系が整っている。人材確保から育成・定着まで幅広い工夫が確認でき、現場の声を尊重しながら人材マネジメントに取り組んでいる。

##### 安心して働ける環境が整い、意欲と働きがいを高める仕組みが機能している

人材育成のために職層ごとに目標を設定し、面談で達成度を確認している。研修は集合型やオンライン型など多様な方法で実施され、職員の意向や経験に応じた受講体系が整っている。指導を担当する職員には、その役割について理解を深める研修や上司からの助言もある。区の人事制度や福利厚生を活用し、職場環境の整備を継続しており、ミーティングや懇親会を通じて良好な人間関係を築いている。安心して働ける環境が整い、意欲と働きがいを高める仕組みが機能している。

##### 職員間で議論を重ねながら、職員全体で推進する体制が定着している

研修内容はミーティングで共有され、職員の日常の気づきや工夫も意見交換を通じて業務改善に活かされている。特に「放課後健全育成事業の運営方針『7つの目標』」に基づく議論は、サービスの質向上につながっている。年間活動計画に沿ったイベントでは、担当者が企画立案し、全職員が協力して推進する体制が定着している。職員が率先して行事を進める姿勢が確認でき、組織の一体感が育まれている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1 (7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】

「遊びを通して心身の望ましい成長を支援する」を挙げ、「明るく楽しい安全・安心な生活と遊びの場をつくる」を目標とした。

【具体的な取り組み】

年間活動計画を立て、体を動かすイベント3回(フラッグフットボール、ポッチャ、Tボールなど)、製作・表現6回(音楽会や工作活動)、伝承遊びデイ1回(大型かるたなど)を学期ごとに実施した。

【取り組みの結果】

行事・イベントの推進が有効であることを確認した。職員間で成果を共有し、改善点を整理することで次年度の方向性を明確化することにつながった。

【今後の方向性】

「7つの目標」チェックリストを活用し職員がセルフチェックを実施した。また、約40件のイベント候補を募集し、子どもの声を反映して主体的に関われる行事を選定した。

主担当・副担当を決定し責任と役割を明確化するとともに、振替休業日の増加を考慮し、新しい分野としてクラブ活動を設定し、菜園活動や作品展など、子どもの自主性を引き出す取り組みを計画した。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない</li> </ul>
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li> <li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む)</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li> <li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

新BOPでは、遊びを通して心身の望ましい成長の支援を課題に挙げ「明るく楽しい安全・安心な生活と遊びの場をつくる」を目標とした。年間活動計画を立て、体を動かすイベント3回、製作・表現6回、伝承遊びデイ1回を学期ごとに各イベントの実施回数を設定し外部講師を招いたスポーツイベントなど具体的に計画した。体を動かすイベントは、フラッグフットボール、ポッチャ、Tボールなどを実施し、製作・表現では、音楽会や工作活動を複数回開催。遊びでは、大型かるたや伝承遊びを取り入れ、子どもが主体的に楽しめる場を提供した。その結果、当初計画以上の実施がなされ、目標を上回る成果を達成することができ、行事・イベントの推進が有効であることを検証できた。職員間で成果を共有し改善点を整理することで次年度の方向性を明確化にすることができた。今後も「7つの目標」チェックリストを活用し、職員のセルフチェックの実施を継続していく。子どもの声を反映して主体的に関われる行事を選定して、主担当・副担当を決定し責任と役割を明確化に実施していく。PDCAサイクルに沿った活動をしており、今後のさらなる活動に期待したい。

**評価項目2**

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

**前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)**

**【課題・目標】**

「安全・安心で楽しい生活と遊びの場」の実現に向け、職員体制強化と学童クラブ適正化を重要課題として設定した。

**【具体的な取り組み】**

職員体制安定化の取り組みを継続し、派遣指導員を採用・活用した。臨時職員採用では町会連携による継続運営と大学生への声掛けを実施し、登録体制を維持した。学童クラブ適正化では、新設民設民営学童クラブ(区補助事業)への準備と関係機関との打ち合わせを複数回実施した。

**【取り組み結果の検証】**

職員採用は前年比で増加し、体制強化の成果が確認された。臨時職員は町会採用者の6名が継続、学生9名を新規採用し40名体制を維持した。学童クラブ適正化では、前年度の民設民営学童クラブ見学や新BOPとの意見交換を通じ、次年度開設準備が具体化した。

**【今後の方向性】**

職員体制の安定的確保と派遣指導員の活用を継続する方針である。臨時職員(プレイングパートナー)の採用は、町会・大学生双方への働きかけを強化し、安定的運営を図る。学童クラブ適正化は新年度からの民設民営2か所開設に備え、関係機関との連携を深化させている。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない</li> </ul>
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li> <li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む)</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li> <li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>

**評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評**

「安全・安心で楽しい生活と遊びの場」の実現に向け、職員体制強化と学童クラブ適正化を重要課題として設定している。より高品質のサービスを提供する実現のために、「学校・地域と連携し環境を整える」ことを挙げている。職員体制強化では、部署内安定化、児童課への配置増強要請、派遣指導員導入、臨時職員の採用体制強化を計画した。職員採用は前年比で増加し、体制強化の成果が確認されている。臨時職員は、町会採用者の6名が継続、学生9名を新規採用し40名体制を維持した。採用は町会・大学生双方への働きかけを強化し、安定的運営を図っている。一方、学童クラブ適正化では、前年度の民設民営学童クラブ見学や新BOPとの意見交換を通じ、新年度からの2か所開設に備え、関係機関との連携を強化させている。民設民営学童クラブの安定化は、当学童クラブの負担軽減に少しでも寄与することと考えており、PDCAサイクルに沿って、重要課題として取り組んでいる姿が見られる。

## Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <b>4/4</b>
	評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している	評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している ○非該当
	◎あり ○なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている ○非該当
	◎あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している ○非該当
	◎あり ○なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している ○非該当
	サブカテゴリ1の講評	
	<p>保護者や関係機関に対し、多様な媒体を活用した情報提供が行われている</p> <p>新BOPでは、保護者や関係機関に対して多様な媒体を活用した情報提供が行われている。具体的には、「新BOPだより」を定期的に発行し、活動内容やイベント情報をイラスト付きでわかりやすく伝えているほか、学校のホームページに専用コーナーを設けてもらい、内容変更時には学校の連絡メールシステムから配信依頼を行うなど、複数の経路で情報が届く仕組みが整っている。情報発信を通じて保護者の関心や参加意識を高めている。こうした工夫により、利用者は常に最新の情報を把握でき、安心して利用できる環境が作られている。</p> <p>イベントや行事の案内においては、子どもが自ら理解し参加できるように配慮されている</p> <p>イベントや行事の案内においては、子どもが自ら理解し参加できるように配慮されている。掲示物やポスターにはふりがなやイラストが用いられ、内容が視覚的に伝わりやすい工夫がなされている。また、外国籍の保護者には英語版の入会申請書を配布するなど、家庭の特性に応じた対応がなされている。文字情報に依存しない多様なコミュニケーション手段として機能しており、子どもが自ら関心を持ち、イベントへの参加意欲を高めている。さらに、子ども同士が情報を伝え合う姿も見られ、相互理解や助け合いを大切にしている様子が伝わってくる。</p> <p>新BOPでは、地域の保育園や学校との情報共有と見学受け入れを積極的に実施している</p> <p>新BOPでは、地域の保育園や学校との情報共有と見学受け入れを積極的に実施している。毎年、近隣保育園の年長児を対象に見学を受け入れ、和室や遊具、読書コーナーなどを紹介することで、入学後の安心感と期待を育んでいる。また、行政や幼稚園への情報提供も行い、地域全体で放課後の居場所づくりを支えている。新BOPの存在を地域に広く認知してもらうだけでなく、保護者や関係者にとっても利用を検討しやすいようにしている。一方で、学童クラブとBOPの機能が分かりにくい面もあり、説明の機会をいかに確保するかを課題としている。</p>	

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 8/8
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p><b>基本的なルールや重要事項、利用料、延長利用等について丁寧に説明している</b></p> <p>学童クラブでは、入会説明会を実施し、基本的なルールや重要事項、利用料、延長利用等について丁寧に説明している。特に配慮を要する子どもやアレルギーのある子どもについては、申請時や説明会での聞き取りを重ね、個別に記録化している。アレルギーや原材料の確認を月ごとに保護者へ依頼し、継続的にチェックしている。こうした丁寧な対応により、保護者が安心して子どもを預けられるようになっている。説明内容も形式的に終わらず、保護者との信頼関係づくりが意識されている。今後は、理解しやすい情報提供の仕組みを強化することが望まれる。</p> <p><b>利用開始直後の子どもに対して、安心して生活に慣れられるよう丁寧な支援を行っている</b></p> <p>利用開始直後の子どもに対して、学童クラブでは安心して生活に慣れられるよう丁寧な支援を行っている。下駄箱やロッカーの場所、生活の流れを職員が個別に説明するほか、自己紹介タイムを設けて在籍児に「新しい仲間を支援してほしい」と促し、集団内での受け入れを自然に進めている。また、職員が独自に作成した「新入会チェックリスト」を活用し、子どもの不安や行動傾向を把握して日常支援へつなげている。こうしたきめ細かな対応は、子どもが早期に安心感を得て主体的に過ごすために有効であり、子どもの心情に寄り添った支援として定着している。</p> <p><b>12月に個人面談を実施し、4年生以降の生活をイメージできるよう支援している</b></p> <p>3年生の学童卒所期には、12月に個人面談を実施し、保護者とともに4年生以降の生活を具体的にイメージできるようにしている。面談では「おるすばんしつもんひょう」を活用して不安や心配点を整理し、必要に応じてBOPや児童館の利用を紹介している。また、児童館まつりや移動児童館への参加を通じて職員や子ども同士の顔なじみをつくり、卒所後の居場所への移行を円滑にしている。特に心配のある家庭には「緩やかな支援」として4年生の夏休みまで利用できる仕組みを設け、家庭の不安を軽減している。生活の連続性を重視した支援を行っている。</p>		

サブカテゴリー3

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリー毎の  
標準項目実施状況

10/10

評価項目1

子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している

評点(0000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	○非該当

評価項目2

子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点(000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	○非該当

評価項目3

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリー3の講評

年度当初に子どもの実態を踏まえた育成支援目標を設定し、支援を行っている

学童クラブでは、年度当初に子どもの実態を踏まえた育成支援目標を設定し、職員全員が共通理解のもとで支援を行っている。要配慮児や発達面に特性のある子どもについては、巡回支援や外部専門員の助言を受けながら、対応を統一して計画を見直す仕組みがある。毎日のミーティングや月例ロングミーティングを通じて、子どもの変化を職員全体で共有し、支援内容を柔軟に更新している。こうした取り組みにより、子どもの成長や状況変化に即した支援が継続的に行われている。今後は、一般児を含めた全児童への記録の体系化が課題である。

子ども一人ひとりの状況や支援内容を「児童台帳」や「児童名簿」に記録している

学童では、子ども一人ひとりの状況や支援内容を「児童台帳」や「児童名簿(特記事項)」に記録し、変化があった場合にはミーティングで共有のうえ付箋などを追記している。特に配慮を要する子どもについては「育成記録」を活用し、行動面の変化や職員の対応の工夫を具体的に残している。こうした記録は、支援の経過を可視化するとともに、次の支援方針を検討する基礎資料となっている。一方で、記録対象が一部の子どものみに限定される傾向があるため、全ての子どもを対象とした一貫した記録体制を構築することで、支援の一層の質的向上が期待される。

受け入れ前ミーティングで子どもの生活状況や、保護者からの情報を共有している

日々の受け入れ前ミーティングや月例ロングミーティングでは、子どもの生活状況や保護者からの情報を共有している。参加できなかった職員もミーティングノートを確認することで内容を把握でき、支援が個人依存に陥らず一貫して行われている。また、事例を持ち寄って話し合う機会を設け、巡回訪問や研修で得た知見を報告し合うなど、職員間で学びを共有している。要配慮児への支援方針も統一され、チームとしての対応力が高まっている。情報共有が形式的な報告にとどまらず、子どもへの理解を深める対話の場として機能している。

サブカテゴリー5	
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重 <span style="float: right;">サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5</span>
<b>評価項目1</b> 子どものプライバシー保護を徹底している <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている <span style="float: right;">〇非該当</span>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している <span style="float: right;">〇非該当</span>
<b>評価項目2</b> サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している <span style="float: right;">評点(〇〇〇)</span>	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している <span style="float: right;">〇非該当</span>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している <span style="float: right;">〇非該当</span>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している <span style="float: right;">〇非該当</span>
サブカテゴリー5の講評	
<p><b>新BOPでは、子どもの個人情報の取り扱いに関して厳格な管理体制を整えている</b></p> <p>新BOPでは、子どもの個人情報の取り扱いに関して厳格な管理体制を整えている。外部との情報共有が必要な場合は必ず保護者の同意を得ており、書類や電子データにはパスワード設定や離席時のPC管理などの対策を講じている。アレルギー児や要配慮児の情報は日誌上でイニシャル表記とするなど、露出を最小限に抑えている。また、嘔吐や着替え時にはパーテーションやポップアップテントを使用し、子どもの羞恥心に配慮した支援が行われている。こうした一連の対応は、職員一人ひとりの意識に基づく実践として定着している。</p> <p><b>日常の支援において子どもの意思や感情を尊重する姿勢が徹底されている</b></p> <p>新BOPでは、日常の支援において子どもの意思や感情を尊重する姿勢が徹底されている。つまずきやトラブルがあった際には、子どもの言葉を丁寧に聞き取り、状況を職員間で共有した上で、頭ごなしに注意せず柔軟に対応している。日常的に名前を呼んで目を合わせ話す、安心して過ごせているかを意識的に見守るなど、一人ひとりの存在を大切にしている実践が行われている。また、保護者とも日常的な対話を通じて価値観や生活習慣を理解し、支援方針に反映している。子どもが自分の考えを受け止めてもらえる経験を積み、信頼関係を育む環境が形成されている。</p> <p><b>暴力やいじめの発生を防ぐため、日常的な情報共有と組織的な対応体制を整えている</b></p> <p>新BOPでは、暴力やいじめの発生を防ぐため、日常的な情報共有と組織的な対応体制を整えている。子どもの言動に気づいた職員が迅速に共有し、学校や関係機関と連携を図ることで、早期対応と再発防止を実現している。トラブルが生じた場合も、加害・被害の区分けにとらわれず、双方の気持ちを丁寧に聞き取り、全体で考える場を設けるなど、相互理解を促す対応を行っている。表面的な指導にとどまらず、子ども自身が「どうすればよかったか」を振り返る機会を重視している。安心と信頼に基づく教育的支援の実践に取り組んでいる。</p>	

サブカテゴリー6		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
<b>評価項目1</b> 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
<b>評価項目2</b> サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリー6の講評			
<p><b>業務内容の標準化を図るため、手引書やマニュアルを体系的に整備している</b></p> <p>新BOPでは、業務内容の標準化を図るため、手引書やマニュアルを体系的に整備している。運営方針、安全対策マニュアルなどをまとめた「レインボーファイル」が作成され、常に手に取りやすい場所に配置されている。また、入会事務や担当別の業務マニュアル、プレイングパートナー(PP)向けの手引きも作成され、職員の経験差にかかわらず統一的な対応が可能となっている。さらに、キャビネットにラベルを貼るなど、書類管理の徹底もなされている。新任職員でもスムーズに業務を理解・実践でき、事業運営の安定性が高まっている。</p> <p><b>手引書や運営マニュアルを基に、業務の内容を定期的に点検し、標準水準を維持している</b></p> <p>新BOPでは、手引書や運営マニュアルを基に、業務の内容や手順を定期的に点検し、標準水準を維持している。ロングミーティングでは、職員が日々の運営状況を確認し、課題や反省点を共有したうえで、マニュアルへの加筆修正を行っている。また、年度末には「新BOP利用の手引き」や「学童クラブのしおり」などを見直し、変更点を職員全員で確認し、保護者にも周知している。日常業務を振り返りながら改善を重ねる実践的なサイクルが機能している。現場の課題に即した内容の精度向上が図られており、組織としての学習能力を高めている。</p> <p><b>利用者や職員の意見を取り入れながら、業務の標準化を柔軟に進めている</b></p> <p>新BOPでは、業務の標準化を固定的な枠組みとして扱わず、利用者や職員の意見を取り入れながら柔軟に進めている。子どもや保護者から寄せられた意見は日々のミーティングで共有され、必要に応じて児童館長や行政機関と協議し、改善につなげている。実際に、入会申請書類の記載内容やIC機器への入力期限に関する要望を受け、手続きの見直しを行った事例がある。双方向的な見直しプロセスは、職員の気づきや利用者の声を業務基準に反映させる点で有効であり、保護者との協働による改善が信頼関係の構築にも寄与している。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	28/28
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している		○非該当
◎あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している		○非該当
◎あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している		○非該当
◎あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>職員間で無線機やミーティングを通して子どもの全体像を捉え、必要な支援をしている</p> <p>新BOPでは、子どもの様子や遊びの状況などを的確に把握するため、日々のミーティングに加え、トランシーバーを用いた迅速な情報共有を行っている。学校からの引継ぎや登室時の様子をその都度職員間で確認し、必要な対応を即時に判断している。保護者への連絡が必要な場合は速やかに共有し、記録として残す体制も整えている。日々の連絡事項や気づきは、昼と夕方のミーティングで確認・検討し、事故防止や環境改善にも活かしている。こうした連携により、子どもの遊びの全体像を捉え、安心して過ごせる支援を行っている。</p> <p>トラブル時に落ち着いて話を聞き、お互いの気持ちに気づくことができるようにしている</p> <p>新BOPでは、けんかなどのトラブルが起きた際、子どもの気持ちに丁寧に耳を傾け、感情の高ぶりを落ち着かせる援助を行っている。まずは静かな場所で一人ずつ話を聞き、思いを言葉やイラストで表現できるよう支援している。発言が難しい子どもには、感情イラストを指差して気持ちを確認するなど、理解しやすい方法を工夫している。その上で、相手の気持ちを確かめ合い、自分たちで解決策を考えさせる姿勢を重視している。職員間でも記録を共有し、子ども間の様子やその対応ごとに支援内容の修正・改善を図り、継続的な支援を行っている。</p> <p>個別対応と職員の統一した継続的対応により、配慮を要する子どもの成長を支援している</p> <p>新BOPでは、配慮が必要な子どもが集団生活に少しずつ馴染めるよう、継続的な支援を行っている。マンツーマンでの見守りが必要な場合には、職員が付き添い、登室時から帰宅まで一貫して見守り、安全確保と情緒の安定に努めている。状況に応じて静かな場所へ誘導し、刺激を避けながら安心できる関係を楽しんでいる。プレイングパートナーにも子どもの特性や配慮点を共有し、チームとして一貫した対応を行っている。こうした関わりにより、子どもが集団の中で自分のペースを見つけ、他者と関わりながら成長できるよう支援している。</p>			
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している		○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している		○非該当
◎あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している		○非該当
評価項目2の講評			
<p>子どもの声を拾い、成長に合わせた遊びを工夫し、自ら考えて楽しめるようにしている</p> <p>新BOPでは、子どもの自主性や自発性を尊重し、発達段階に応じた遊びや活動の環境づくりに努めている。「この遊びがしたい」といった子どもの声を職員が拾い上げ、人数や安全面を考慮しながら実現できるよう工夫している。土遊びや五感を使った活動、学年ごとの特性に合わせた遊びを取り入れ、子どもが自分の思いや興味を表現できる機会を広げている。職員同士もミーティングで意見を出し合い、遊びの幅を広げながら、子どもの挑戦を後押ししている。こうした支援により、子どもが自ら考え、楽しみながら活動を選ぶことにつながっている。</p> <p>菜園などを通して子どもの主体性を引き出し、協力して達成感を味わっている</p> <p>学童クラブでは、子どもが集団活動に主体的に関われるよう、日々の援助を工夫している。菜園活動では、水やりや草抜きなどの当番を子ども自身が手を挙げて決め、職員と一緒に野菜の成長を見守っている。収穫した野菜は「野菜くじ」で公平に分け合い、当たった子どもが自分でナスを探って持ち帰るなど、楽しみながら達成感を味わえるようにしている。保護者からも「家で調理して報告してくれた」との声があり、活動を通して家庭とのつながりも深まっている。こうした体験により、子どもは仲間と協力しながら責任を持って行動する力を育てている。</p> <p>生活・遊びの中で安全配慮と自立を促し、生活習慣の定着と社会性を育てている</p>			

学童クラブでは、生活や遊びを通して子どもが基本的な生活習慣や良好な関係性を身につけられるよう援助している。食事前後の手洗いや机拭きに加え、ランドセルの置き方や遊びの際の周囲への配慮など、声かけを日常的に行っている。1年生は行動が無邪気で、2・3年生では注目を引こうとする行動も見られるため、職員は学年に応じた関わり方を考慮している。おやつ袋の開け方なども自分でできるよう促し、必要に応じて手本を示している。こうした積み重ねにより、子どもは日常生活の中で自立心と社会性を育てている。

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		○非該当
評価項目3の講評			
<p><b>子どもの興味や流行をくみ取り、遊びを広げて主体的に楽しめる活動へと発展させている</b></p> <p>学童クラブでは、日常の遊びの中から子どもの興味や流行りを汲み取り、自然に活動へつなげる工夫をしている。数人の子どもが始めた遊びを職員が支え、他の子どもたちにも広げていくことで、遊びの輪を発展させている。例えば、「天下」などの子どもたちが盛り上がった遊びを大会やイベントとして発展させ、みんなで楽しめる場になっている。遊びの中で「もう一度やりたい」「次はこうしたい」という声生まれ、子どもが自らの発想を形にしている様子がうかがえる。こうした取り組みを通して、興味が湧く、わくわくする遊びや活動へと広がっている。</p> <p><b>意見箱等の仕組みを活かし、子どもの主体性を伸ばすさらなる取り組みが期待される</b></p> <p>新BOPでは、子ども同士が意見を出し合い、活動をつくっていく機会を大切にしている。児童館まつりのダンス発表では、覚えた子が友達に教え合い、練習の時間も遊びのように楽しむ姿が見られる。夏休みの学童クラブのチャレンジビンゴでは、普段は控えめな子が自分からお題を提案し、得意なことを生かす姿も見られる。仲間と作り上げていく関わりを通して、子どもたちは「伝える」「認め合う」体験を重ね、協力しながら活動を形にしている。今後は意見箱などの仕組みも活かし、子どもたち自らが考え、行動する主体的な力のさらなる育成が期待される。</p> <p><b>保護者との温かな連携を通して子どもの意欲を高め、挑戦する気持ちを支えている</b></p> <p>新BOPでは、行事の実施にあたり、保護者に活動の趣旨や子どもの様子を伝え、理解と協力を得る工夫をしている。お便りや掲示を通して事前にお知らせし、家庭で話題にもらうことで、子どもの意欲につなげている。児童館まつりでは保護者と一緒に参加する機会も設け、子どもの活動を見守る時間を共有している。行事後には写真や掲示で成果を紹介し、家庭でも「楽しみにしている」との声が寄せられている。こうした保護者の理解を深める取り組みが、子どもの挑戦する気持ちを支える力になっている。</p>			
4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇)・非該当1	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している		○非該当
○あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している		●非該当
評価項目4の講評			
<p><b>子どもの声に耳を傾け、新しい遊びの場を広げ、楽しく通える環境づくりを進めている</b></p> <p>新BOPでは、子どもが楽しく通い続けられるよう、一人ひとりの思いに寄り添った援助を行っている。ドッジボールなど決まった遊びだけでなく、「サッカーがしたい」「バスケットをやってみたい」といった子どもの声を受け止め、新しい遊びの場を広げている。職員同士がミーティングで意見を共有し、子どもの小さな「やりたい」を形にできるよう工夫を重ねている。こうした取り組みにより、以前は参加をためらっていた子ども、今では笑顔で遊びに加わる姿が見られ、子どもが自分の居場所として安心して通える環境づくりを進められている。</p> <p><b>スケジュールボードや鐘の合図を活用し、見通しを持って過ごせるように支援している</b></p> <p>新BOPでは、掲示板やスケジュールボードを活用して日課を示し、子どもが自ら行動の見通しを持てるよう支援している。おやつや活動の時間を掲示板にわかりやすく示し、「今日は体育館なんだね」と子ども同士が確認し合う姿も見られる。鐘の音を合図に次の行動へ移ることで、集中と休息のリズムを自然に切り替えができるように工夫している。低学年の子どもには、職員が「次はこれだよ」と優しく声をかけ、慣れた子が他の子を手助けする場面もある。見通しを持って行動できる仕組みづくりを通して、子どもたちの主体性が育まれている。</p> <p><b>掲示の整理や整頓の声かけで、落ち着いて安心して過ごせる室内環境づくりを進めている</b></p> <p>新BOPでは、子どもが落ち着いて過ごせるよう、室内環境の工夫を進めている。職員の気づきをきっかけに掲示物を整理し、必要な情報を誰もが見やすく整えることで、空間がすっきりし、子どもにとっても安心してできる場になっている。また、上履きを揃える、机の上をきれいに保つなどの小さな行動を子どもと一緒に大切に、できたときは全体で褒め合うなど、共に整頓する行動を定着させている。こうした温かな関わりを通して、子どもたちが自分たちの生活の場を整える喜びを感じ、安心して活動できる環境づくりを進めている。</p>			

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
◎あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
◎あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当

評価項目5の講評

**学校との情報共有や行事交流を通して協力し合う関係を築き、子どもの成長を支えている**

新BOPでは、子どもが放課後の生活を安心して過ごせるよう、学校との連携を大切にしている。担任や副校長が来訪するなど、学校からも学童クラブでの子どもの様子を気にかけ、声をかけてくれている。登校時や下校時の情報共有をはじめ、行事や音楽会には案内状を届け、先生方を招くことで相互の関係を築いている。また、学校内施設や物品を借用する際も、事前に相談し合いながら協力している。保護者への連絡や学校からの依頼にも丁寧に応じ、協力しながら子どもの成長を見守る協力体制が築かれている。

**学校・家庭と連携し、子どもの気持ちに寄り添い、安心できる環境づくりに努めている**

新BOPでは、登校しぶりのある子どもが安心して過ごせるよう、学校や保護者と連携して支援を行っている。賑やかな環境が苦手な子には静かな和室を用意し、本人の気持ちや保護者の意向を受け止めながら、無理のない過ごし方を一緒に考えている。個々の特性や気持ちに配慮するために、学校との情報共有ノートを活用し、日常の様子や変化を記録しながら支援を調整している。また、民設民営学童クラブと学校の連携の橋渡しをするなど、子どもが安心して学童クラブを利用できるように支え、子どもの気持ちに配慮した放課後の環境づくりに努めている。

**関係機関との連携と専門的助言を活かし、配慮が必要な子どもの成長を支援している**

学童クラブでは、配慮が必要な子どもや家庭の事情に支援が求められる子どもに対して、学校や保護者、関係機関と連携しながら丁寧に支援を行っている。例えば、保護者の同意を得て、区が実施する巡回相談や巡回支援員から集団と個別の支援内容の助言を受け、職員間で確認し、個別対応に活かしている。また、入所前に関わっていた療育機関とのつながりも重視し、配慮が必要な子どもへの切れ目のない育成支援体制に努めている。支援内容は、育成記録に記し、一年を通して子どもの成長発達の支援に努めている。

6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
◎あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当

評価項目6の講評

**2か所の育成場所を活用しグループに分け、主体的におやつを楽しめる環境を整えている**

学童クラブでは、帰宅時間や学年ごとの流れを考慮し、新BOP室と校舎内のラウンジを活用して、グループに分けておやつを提供している。「決まったものを食べなければならない」形式ではなく、複数の種類から制限数内で好きなものを選ぶようにしており、子どもの気持ちを尊重している。食べたくない場合も無理をさせず、水分補給を促して一息つける時間を大切にしている。おやつや場所はスケジュールボードに示され、子ども自身が確認して行動できるよう工夫されており、子どもが主体的におやつを楽しめる環境が整えられている。

**おやつの時間設定や内容に柔軟性を持たせ、食への興味を引き出す工夫をしている**

学童クラブでは、現在、おやつの時間帯を午後2時30分から4時までとし、早帰りの児童を優先して提供するなど柔軟に対応している。甘味・塩味・水分をバランスよく組み合わせ、季節感のある果物やジュース、乳製品も取り入れている。内容や量を工夫し、複数の種類から数個以内で選べる方式とすることで、子どもの自主性を重んじつつ廃棄量を減らすことにもつながっている。おやつを見やすく並べ、興味や食欲を引き出す工夫を凝らし、子どもが自分の意思で楽しくおやつを選べる雰囲気がつくられている。

**個別対応や研修を通じて、食物アレルギーへの安全配慮を徹底し、おやつを提供している**

学童クラブでは、アレルギーのある子どもに対し、安全を最優先とした提供体制を整えている。名前と内容を明記した専用タッパーやお盆を用意し、事前に職員間で提供手順を確認してから配膳している。食前と食後には職員が必ず内容を確認し、現物の袋や記録を専用ファイルに残している。発症時や相談時には医師へ迅速に情報提供できるよう、袋の保管と記録を徹底している。保護者からの情報更新は月1回のロングミーティングで共有し、常勤職員が中心となって更新を管理している。看護師によるエピペン訓練も実施して、安全な提供環境を維持している。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p><b>健康で安全な生活のため、日常で理由を伝えながら危険を予防する指導を行っている</b>          学童クラブでは、子どもが健康で安全に生活できるよう、日常の中で「なぜそれが大切なのか」を丁寧に伝えている。例えば、ロッカーの使い方や荷物の置き方を「こうすると帽子や水筒も安全に入るよ」と理由を添えて繰り返し伝え、危険行動を予防している。ロッカー使用時のけがをきっかけに、危ない場面や場所を話し、子どもたちと一緒に安全な使い方や過ごし方を話し合い、室内に掲示して注意喚起している。水分補給や手洗いなどの生活習慣についても掲示や声かけで促し、子どもが自ら健康を守る意識を育てている。</p> <p><b>体調を自ら振り返り伝えられるよう、子どもの小さな変化を見守り温かく支援している</b>          学童クラブでは、子どもが自ら体調不良やけがを伝えられるように支援している。外遊び後の「遊び確認タイム」では、職員が顔色やけがの有無を目視で確認し、「今日は楽しかった?」「どこか痛くない?」と声をかけ、子ども自身が体の変化に気づけるよう促し、本人から話しやすい雰囲気を作っている。職員は子どもの小さな変化を見逃さず、気づきを職員間で共有して支援に生かしている。元気な子どもだけでなく、静かに過ごす子にも優しく声をかけるなど、一人ひとりに寄り添う温かい援助を行っている。</p> <p><b>食物アレルギーや服薬では、看護師・保護者と連携し、安心の支援体制を整えている</b>          新BOPでは、食物アレルギーや服薬の必要な子どもに対して、保護者や看護師と連携した対応体制を整えている。エピペン対応は事前に所属課の看護師と確認し、保護者の同意を得て個別プランや緊急時対応カードを整え、看護師と連携し緊急対応の研修を職員全員が受けている。また、保護者が児童票に服薬方法を記入している場合は、事前に看護師と確認し、子ども自身が行う服薬を見守り、記録に残している。さらに、看護師通信や研修で得た情報を職員間で共有し、全職員が落ち着いて対応できるよう体制を強化している。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p><b>個別相談は随時受け付けており、ファミリーサポートや他機関の情報提供を行っている</b>          新BOPでは、保護者の就労や家庭事情に応じて柔軟な支援を行っている。個別相談は随時受け付けており、ファミリーサポートや他機関の情報提供を行うほか、夏休みのBOP休止時などには面談を通して一時的な利用調整にも対応している。こうした個別面談の機会を通じて、家庭の状況を把握しながら適切な支援につなげている。職員が単に制度的な案内にとどまらず、保護者の負担感を軽減しようとする姿勢が見られる。生活や就労を支える相談機能が日常的に根づいており、地域における子育て支援拠点としての役割を果たしている。</p> <p><b>日々のお迎え時に保護者へ子どもの様子を丁寧に伝え、家庭と連携した支援を行っている</b>          学童クラブでは、日々のお迎え時に保護者へ子どもの様子を丁寧に伝え、家庭と連携した支援を行っている。トラブル発生時には経緯や対応内容を誠実に説明し、今後も気軽に相談できるよう声をかけるなど、信頼関係を重視した対応が定着している。また、学校や児童館で保護者と顔を合わせた際も積極的にあいさつし、親しみやすい関係づくりを意識している。こうした日常的なコミュニケーションが、保護者の安心感や信頼感を醸成しているといえる。さらに、学年ごとの個人面談を通じて、子どもの発達や生活面について共通理解を図っている。</p> <p><b>年2回の保護者会や3月の入会説明会を通じて、情報共有と関係づくりの場を設けている</b>          保護者間の交流を重視し、年間2回の保護者会や3月の入会説明会を通じて、情報共有と関係づくりの場を設けている。個人面談で保護者同士が時間的に重なった際には、職員がさりげなく言葉を交わすなど、自然なつながりが生まれるよう配慮している。保護者が孤立せず安心して子育てできる環境づくりを支えている。家庭・地域・クラブが緩やかに結びつき、支え合う仕組みが形成されつつある。今後はグループ懇談会など、より多様な交流形態の展開も期待される。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p><b>地域と連携し、子どもが多様な体験を通じて地域社会とつながる機会を確保している</b></p> <p>新BOPでは、地域の人々や団体と連携し、子どもが多様な体験を通じて地域社会とつながる機会を確保している。プレイングパートナー(PP)の募集を地域に呼びかけ、実際に地域住民が活動スタッフとして関わっている。さらに、大学祭や地域イベントに子どもたちが参加し、学外の大人や学生と交流することで新たな刺激を得ている。地域資源を単なる「場」としてではなく、子どもにとっての学びや関係性の拡大の契機として位置づけている。地域との関わりを通じて、子どもの社会的視野が広がり、自立や共感の力を育む実践といえる。</p> <p><b>児童館まつりなどに積極的に参加し、地域住民との交流を図っている</b></p> <p>新BOPでは、児童館まつりなどに積極的に参加し、地域住民との交流を図っている。新BOPの行事に地域の人を招待したり、演奏会ではPPとして活動する地域の大人(卒業生他)が出演し、子どもたちが身近に多様な大人の姿に触れる機会を得ている。地域の文化や人との関わりを通じて、子どもが自分の生活圏を広く感じ取る契機となっている。また、地域行事への参加を通じて、子どもが「地域の一員」としての意識を育てている。大人数の引率など運営上の課題はあるが、地域社会の中で子どもの成長を支える関係づくりが進んでいる。</p> <p><b>地域で活動する人々や近隣大学の学生がプレイングパートナーとして関わっている</b></p> <p>新BOPでは、小学校の卒業生をはじめ、地域で活動する人々や近隣大学の学生がプレイングパートナーとして関わり、子どもたちを支えている。かつて在籍していた子どもが成長して今度は支援者として関わることで、地域全体で子どもを見守る循環的な仕組みが形成されている。世代を超えた学びとつながりを生み出し、地域における人材育成の側面も持っている。日常的なかかわりの中で、子どもが大人に憧れ、地域への親近感を深めることは、社会性や自己肯定感の育成にも寄与している。地域の人材を生かした継続的な支援体制が確立つつある。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル①	職員の意見を引き出しながら、働きがいのある職場を目指している	
内容①	新BOPでは、ロングミーティングや日々のミーティングなどの機会を通じて理念や方針を職員に繰り返し伝えている。ミーティングでは、職員の日常の気づきや工夫についても意見交換しながら業務改善に活かしている。また、人材育成のために職層ごとに目標を設定し、面談で達成度を確認している。研修は集合型やオンライン型など多様な方法で実施され、職員の意向や経験に応じた受講体系が整っている。指導を担当する職員には、その役割について理解を深める研修や上司からの助言もある。組織の一体感を育みながら、働きがいのある職場を目指している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-2	日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	子どもの思いや発想を活かし、遊びに変化をつけ、主体的に成長できる環境を整えている	
内容②	新BOPでは、子どもの声や思いを丁寧に受けとめ、発達段階や興味に応じた遊びの場づくりを進めている。子どもの提案や流行を取り入れ、遊びを大会や行事へと発展させるなど、自ら考え挑戦できる機会を設けている。また、菜園活動などの共同作業では、協力し合いながら達成感を味わう体験を重ね、仲間との関わりや責任感を育てている。さらに、職員は子どもの「やりたい」という声に耳を傾け、新たな遊びの場を広げている。こうした取組により、子どもが安心して自分らしさを発揮し、主体的に成長できる環境を整えている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-6-1	手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている
タイトル③	おやつ担当やリーダーの役割など、職員の業務内容を「カード化」して明確に示している	
内容③	新BOPでは、職員の業務内容を「カード化」して明確に示している。おやつ担当やリーダーの役割をはじめ、おやつ準備など場面ごとのカードが用意され、日々の具体的な行動や留意点が整理されている。これにより、誰もが持ち歩きやすく確認しやすい形となり、新任職員でも迷わず業務を遂行でき、指示の重複や抜けが生じにくい体制が作られている。従来は児童指導が個別に伝えていた内容が共有化され、指導の均質化と効率化が進んでいる。職員間の連携や新人育成を支える実践的な工夫として、組織的な運営の充実に寄与している。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもの感情や特性を丁寧を受けとめ、個別支援と専門的助言を活かし、温かく声をかけながら安心して成長できる環境を整えている
	内容	新BOPでは、子どもの感情や特性に寄り添い、一人ひとりの成長を継続的に支える取り組みを進めている。けんかやトラブルの際には、気持ちを言葉やイラストで表現できるよう援助し、相互理解を促している。配慮が必要な子どもには、個別支援と一貫したチーム対応を行い、安心して過ごせる環境を整えている。さらに、巡回指導などから専門的な助言を受け、成長発達を支えている。また、「遊び確認タイム」を設け、体調や気持ちの変化に気づき、温かく声をかけることで、子どもが自分の状態を振り返り、安心して通える学童クラブづくりを進めている。
2	タイトル	新BOPでは、子どもの安定した生活を確保するため、民設民営学童クラブとの緊密な連携を図っている
	内容	子どもの安定した生活を確保するため、新BOP連絡協議会に民設民営学童クラブが参画し、地域団体や委員との協力関係を構築して定期的な情報交換を行っている。例えば三学童合同の打ち合わせでは、公設・民設双方の良い実践を学び合い、運営改善に活かしている。さらに、不審者対応や自然災害時の安全確認など日常的な課題にも連携して取り組み、子どもが安心して過ごせる環境を整えている。民設民営学童クラブの安定化は新BOPの負担軽減にもつながり、地域全体で子どもの健全育成を支える仕組みが形成されている点は大きな成果である。
3	タイトル	学校のホームページに「新BOPコーナー」を設け、活動の様子や予定を定期的に掲載し、クラブの取り組みを正確に伝えている
	内容	新BOPは、学校との良好な関係を基盤にした開かれた情報発信を実現している。特筆すべきは、学校のホームページに「新BOPコーナー」を設けてもらい、活動の様子や予定を定期的に掲載している点である。取り組みが正確に伝わるとともに、保護者・学校・地域住民の誰もが活動を確認できる仕組みが整っている。校長や副校長が異動しても継続的な理解と協力が得られており、信頼に基づく関係性が確立されている。情報が学校を通じて保護者へ円滑に伝わることで安心感が生まれ、地域における学童クラブの存在意義と透明性が高まっていると言える。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	意見箱等を活用し、子どもの生の意見を計画づくりに反映し、仲間との協働を通して自ら考え行動する力を育む学びの環境づくりが期待される
	内容	新BOPでは、子どもの思いや意見を尊重し、発達段階や興味に応じた活動を通して主体性を育む取り組みが進められている。菜園活動や遊びの場面では、子ども同士が協力し合いながら責任感や達成感を得る体験を重ね、仲間との関わりを深めている。また、話し合いなどを通じて、子どもが自ら考え、仲間や職員とともに活動をつくり上げていく学びの過程が生まれつつある。今後は、意見箱なども活用し、日々の活動や意見を計画づくりに反映させ、こうした学びをさらに広げていくことで、子どもが自分らしく成長できる新BOPづくりが期待される。
2	タイトル	帰り道が同じ家庭同士のつながりづくりなど、自然な交流のきっかけを設けることで、保護者間の連帯が深まることが期待される
	内容	新BOPでは、子どもの生活環境をより良いものにするため、保護者との関係づくりをこれまで以上に強化していくことが課題である。現状では保護者会の開催や個々の交流は見られるものの、それ以上の連携は任意にとどまり、全体としての支え合いの仕組みには発展の余地がある。子どもの人数が多く、活動室も分かれているため、環境改善には保護者の理解と協力が不可欠である。帰り道が同じ家庭同士のつながりづくりや、上級生の保護者による経験共有の場など、自然な交流のきっかけを設けることで、保護者間の連帯が深まることが期待される。
3	タイトル	「明るく楽しい安全・安心な生活と遊び場をつくる」ためより良い事業環境を整備していく計画を早急に進めていきたい
	内容	新BOPは学校や地域と連携し、子どもの居場所を確保しているが、多人数のため活動が分散し、教室利用では子どもが十分に休めない場面もある。職員は日々変化する場所と内容に対応する必要があり、業務習熟に時間を要している。例えば、雨天時の急な教室変更や要配慮児童への個別対応では人手不足が顕著となった。職員や臨時職員の配置に限られる日もあり、余裕のない運営が課題である。今後は、所管課も含め、安定した人員確保と活動環境の改善を早急に進め、子どもが安心して過ごせる場を整えることが求められる。